

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
がん看護学特論 I (がん病態治療学)	1	前期	2	講義 30時間
担当教員	岡本明美、宮地康僚、草薙洋、立花由梨、関未来、庄司一寅、関根龍一、大上俊彦			
授業概要	腫瘍の発生・進展、がんの診断に必要な種々の検査方法およびがんに対する最新治療や症状管理など、高度な臨床判断とがん看護実践の基盤となる医学的専門知識を深める。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんの罹患の動向やわが国のがん対策について説明できる。 2. がんの病態と診断、最新の治療法について説明できる。 3. がん治療における手術療法・薬物療法・放射線療法の治療戦略、有害事象のマネジメントについて説明できる。 4. がん・がん治療に伴う身体症状に対する緩和医療における臨床判断について説明できる。 5. がん治療に伴う心理社会的症状に対するサイコオンコロジーアプローチについて説明できる。 			
履修条件	特になし			
授業計画	回	内容	担当教員	
	1	がん看護における腫瘍学知識の活用 がん医療の動向と対策 がんの疫学、がん対策基本法、がん予防・がん検診	岡本	
	2-3	がんの病理学 がんの発生、がん遺伝子、がん細胞の増殖・分化 浸潤・転移、病理学的診断	立花・関	
	4-5	手術療法における最新の知見	草薙	
	6-7	がん薬物療法における最新の知見	宮地	
	8-9	放射線療法における最新の知見	庄司	
	10-11	がん・がん治療に伴う身体症状に対する緩和医療 がん性疼痛および身体症状に関する臨床判断プロセスと治療戦略、 効果判定	関根	
	12-13	がん・がん治療に伴う心理社会的苦痛に対するサイコオンコロジー サイコオンコロジーとは、患者・家族の一般的な反応、不安・抑うつ等のアセスメントと治療的介入	大上	
14-15	腫瘍の病態生理とがん治療に関する発表・討議 各自の興味関心に合わせて、消化器がん・乳がん・造血器腫瘍・肺がん・泌尿器がん・婦人科がん・骨軟部腫瘍・脳神経腫瘍・頭頸部がんのうち、2つの癌腫を選択し学習する。	岡本		
教科書	特になし			
参考書	佐藤隆美他編集：がん治療エッセンシャルガイド、第4版、南山堂、2019.			
評価方法・基準	授業での討論内容(60%)、作成資料(20%)、プレゼンテーション(20%)を総合して評価する。			
事前・事後学習	事前学習：授業概要を参考に、それぞれの課題に対して文献および研究論文による学習を行う。 事後学習：学習内容のがん看護実践への適用について検討する。			
備考	特になし			